

石岡地区保護司会 会長賞

「一いつひとつの行動から」

南小学校 六年 小吹 悠（おぶき ゆう）

この夏、ぼくは、初めてホームステイを経験しました。ぼくはサッカーを習っていて、その遠征で、宿に宿泊することはありましたが、他のチームの選手の家に宿泊することは、とてもきん張していました。それと同時に、他のチームの選手を受け入れ、ぼくの家に宿泊することも初めての経験でした。

まずは、ぼくの家を受け入れ、ホームステイをしたことが先でした。ぼくの家なのに、とてもきん張していましたが一緒に風呂に入ったり、食事をしたり、サッカーの話をしているうちに、仲良くなりました。受け入れた子たちは、とても礼儀正しくて、「よろしくおねがいします。」「いただきます。」「ごちそうさまでした。」「おやすみな

さい。」「おはようございます。」「ありがとうございます。」「お世話になりました。」「を相手にきちんと伝えることは、とても大事なことになるのだと改めて思いました。ぼくは、毎日寝起きが悪く、「おはよう。」を言えていないときがあります。ホームステイは、ふだんの日常をふり返るきっかけとなりました。また、「とても楽しかったよ。」と言ってくれたことが、ぼくはうれしかったです。ぼくは、受け入れた子たちから学んだことを、ホームステイ先で心をこめて伝えることができたと思います。もちろん、宿泊しせつにおいても、食事を作ってくださいる方や宿の方に対してもお礼の気持ちをこめて、あいさつやそうじをします。

初めて宿に長期遠征したときのこ

とを思い出しました。そのときもきん張していて、行って帰ってくるのがせいいっぱいで、気持ちによゆうがありませんでした。あいさつはしていましたが、心がこもっていたのかなとふり返りました。

思いやりのあるあいさつや行動は必ず、相手に伝わります。伝えられた側、相手の立場になってみて、ぼくは気がつきました。

ぼくは今まで、何も考えずにしていたことですが、毎回そこには気持ちをこめておこなっていきたいと思いました。

ぼくは、今、小学校六年生ですが、何年か後に社会人となったとき、これらの経験が生かせるようにしたいです。そして、これからたくさん経験

をしていきたいと思います。一人ひとりが、社会のルールを守る行動をし、ていねいにあいさつをすること、初対面の人にもていねいな言葉づかいをするなど、礼儀を大切にしていければいいと思います。

今までのぼくは、物を大切に扱うこと、気持ちの良いあいさつ、言葉づかいや行動は、できていたつもりになっていました。一つひとつのことをていねいに、気持ちをこめて行うことで、相手のことを敬い思いやる気持ちが生まれます。社会のルールを守る行動が明るい社会を創っていくのだとぼくは思います。そしてその気持ちを持ちつづけていくことが大事なことです。ぼくがこの先、大人になって今をふり返ったとき、新たな気づきがあるでしょうか。

